



玉幡小学校 学校だより 第12号

チーム玉幡

平成30年10月10日(水)

校長 望月和彦

全校児童の力を結集した秋季大運動会



強い勢力を持った台風24号と秋雨前線の影響を受け、開催予定を3日延長した10月2日(火)に秋季大運動会を開催いたしました。平日開催となったことで、保護者やご家族の皆様にはご迷惑をおかけしました。しかし、2日当日は秋晴れの絶好のコンディションの中で、プログラム通りにすべての種目を実施することができ、子どもたちは練習の成果を思い残すことなく存分に発表できたことはとても良かったです。

平日にもかかわらずたくさんの家族や地域の方々が見守る中、全校児童の堂々の入場行進から運動会は始まりました。開会式での、福島児童会長の話、赤白それぞれの色リーダーによる「誓いの言葉」、全校児童の運動会の歌「ゴーゴーゴー」からは、本番にかける子どもたちの意気込みを感じることができました。友だちと心を合わせて取り組んだ学年ごとの競争競技。チームのために精一杯走った学年リレー。赤白に分かれて作戦を立てて力の限りを出し尽くした低・中・高ブロックの綱引き。そして、児童全員が赤・白に分かれて、心を一つにして大玉を送った「大玉ウェーブ」。どの種目も迫力ある熱戦が展開され、全力を出し切ろうと必死にがんばる子どもたちの姿がとても輝いて見えました。また、赤白それぞれのキッズ係が中心になって繰り広げられた応援合戦も会場を盛り上げていました。



そして、カメラやビデオの撮影者が最も多かったのが、低・中・高ブロックごとの表現演技です。低学年は「ドラえもんズ」。最初は前後左右に進むことも、手足の右左を合わせることも大変だった1・2年生でしたが、練習を通してぐんぐん上達し、本番はとてかわいく上手に演技できました。保護者には頭のタケコプターが大人気でした。中学年は「キッズソーラン 2018」。最初は身体が支えられず腰が下がらなかった子たちも、本番は腰がしっかり落ち、声を張り上げて演技していました。顔の表情からも必死に演技していることが伝わってきました。そして、高学年の「組み立て体操 絆」。1学期から、力の入れ方や身体の支え方などの基礎を学び、2学期に入り一つ一つの技を練習し、磨いてきました。本番の20分間では、ミスなくすべての技を完成させることができました。全員の力で一つの作品を作り上げようという強い気持ちを感じられ、涙を流しながら見ている保護者の方もいらっしまいました。

競技や演技とは別にすばらしかったのは、5・6年生の係活動でした。閉会式での運営、種目の内容や実況を知らせる放送、用具の準備やライン引き、審判の補助、出発合図や得点掲示、そして応援指導など、あちこちで5・6年生が運動会を自分たちで作り、支えていました。

そして、閉会式。今年度の優勝は「赤組」。喜びに沸く赤組と残念な表情の白組は対照的でした。しかし、運動会のねらいは、仲間と心をつなげて、助け合い、励まし合い、何かを追い求めたり、つくりあげたりするすばらしさを学ぶことにあります。その意味では、赤組も白組もどちらも「目標達成」だと私は思います。そして、今年も6年生を中心とする上級生が「玉幡小の顔」として、下級生にお手本となる姿を見せてくれたことが成功の大きな要因でした。

閉会式終了後の赤白の色別総会では、6年生から下級生に「ついてきてくれてありがとう」という話があり、それに対し5年生を中心とする下級生から6年生に感謝の気持ちとエールが送られました。運動会という行事の取り組みや当日の発表を通して、1年生から6年生まですべての児童が、授業では学べないたくさんのことを学び、大切な力を身につけることができました。これからの学校生活にいかし、さらに高めていってほしいと願っています。

保護者やご家族の皆様には、取り組み段階から必要なものを準備していただいたり、子どもたちを励ましていただいたり、様々な形で協力していただきました。当日もたくさんのご声援や拍手をいただき、子どもたちには大きな力になりました。また当日、PTA 種目や1年生の玉入れに参加して盛り上げていただいた方々、閉会式後の片付けにご協力していただいた方々、PTA 種目の企画や準備、事前のテント張り、当日の開門と駐車場の整理をしていただいたPTA 役員の皆様には、心より感謝申し上げます。さらに、開門時刻やテント設置場所などのルールやマナーを守って参観していただいたこと、ありがとうございました。

